

夢に向かってまっしぐら

第33回 日本語スピーチ発表会

The 33rd Japanese Speech Presentation
By Winners of Overseas Japanese Speech Contests

 一般社団法人 日本在外企業協会

共催

 日本アセアンセンター

後援

 JAPAN FOUNDATION
国際交流基金

協力

 AIESEC

第33回 日本語スピーチ発表会（主催＝日外協、共催＝日本アセアンセンター、後援＝国際交流基金、協力＝アイセック・ジャパン）が2018年10月18日（木）、アセアンホール（日本アセアンセンター）で晴れやかに開催。ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムから各国のコンテストを勝ち抜いた10人の代表がスピーチを披露した。これは日外協が1986年から毎年実施している「日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業」の一環として行っているもので、ASEAN各国の大使館、会員企業・団体、大学関係者、および発表者の友人ら約100人が駆けつけた。



※本事業の詳細は日外協 WEB サイト参照。

サイトトップページ>「日外協の活動」>「国際交流活動」

<https://www.joea.or.jp/activity/exchange/speechcontest>

オープニングビデオで10人の発表者が紹介された後、開会挨拶に立った日外協・伊藤雅俊会長は、出席者への謝辞を述べるとともに、ASEANと日本をつなぐ草の根交流の意義を強調。発表者に「皆さん緊張しているかもしれませんが、リラックスして発表してください」と語りかけ励ました。



発表会を共催する日本アセアンセンターの藤田正孝事務総長は、「起承転結で結論を最後にもってくる日本式か、結論を最初に言う欧米式か、発表者の皆さんがどんな話の展開をするのか楽しみにしている」と述べた。そして、今後もさらに日本語に磨きをかけASEANと日本の架け橋となっていきたいと期待を寄せた。



続いて、昨年の参加者7人からのビデオメッセージ。「頑張れ！ 応援しています」「日本語は難しいけど、勉強を続けてください」。全員が日本語を一段と上達させ、学生として、社会人として元気に活躍している様子が伝わってくる。その1人、前年のフィリピン代表クインシアン・マリ・ヤップ・タンボさんは、来日してソフトエンジニアとして大阪で働いている。

いよいよ日本語スピーチの発表。各国の代表10人が日本文化との出会いや感動、将来なりたい自分・ありたい自分などについて語った。「他の人のために生きることによって支援してくれた人に恩返しをしたい」「日本語教師になりたい」「貧しい恵まれない子どもたちに学校をつくってあげたい」「アニメの声優になって人々を元気づけたい」「海外から来て悩んでいる人たちに

にそれぞれの言語で寄り添うカウンセラーになりたい」など強い思いが伝わってくる。

講評に立った桜美林大学の馬越恵美子教授は、「今回のキーワードは夢。どのスピーチもやさしさと温かさと強さが感じられて、心を射られるようだった」と発表者一人ひとりにこやかに語りかけ、健闘をたたえた。



続いて、「日本アセアンセンター事務総長賞」と「日外協会長賞」の発表。いずれも日本語の優劣ではなく、それぞれの団体の活動主旨に最も合ったスピーチを行った代表に贈られるもの。日本アセアンセンター事務総長賞には国際協力の大切さを訴えたミャンマーのヌウェ・ウー・カイさんが、日外協会長賞には環境問題という大きなテーマを身近にいるお父さんと結びつけて伝えたインドネシアのセリ・イナヤンティさんが選ばれた。



日本アセアンセンター事務総長賞(左)と日外協会長賞(右)

発表会終了後に行われた交流会では、各国の大使館員ら来賓が挨拶。発表者たちに賛辞を送り、労をねぎらった。

なお、ASEAN10カ国の代表全てがそろうのは33回目の今回が初めて。新たな歴史を刻む発表会となった。

僕の中の私

シワボン・ジャスヌーンさん (21歳)
マハサーラカム大学・学生 (タイ)

僕の家族は女性が多くて、友達も女の子。子どもの頃は女の子と人形で遊んでいました。

中学生になると、男の友達からいじめられて、「学校をやめたい」と思いました。そんな時、ある男の人を好きになりました。でも、先輩は「ただの後輩だと思っているよ」と。涙が出ました。「男の子が男の子を好きになったらダメなの？」。

高校3年生の時、アルバイトの仕事を探したら「男を募集しているんだよ」と断られました。デパートの店員の仕事がやっと見つかり、休みに3カ月間働きました。

大学では日本語を専攻しています。そして、アルバイトも同じデパートで続けています。「休みにまた働きに来て」と上司は言ってくれます。うれしいです。かたちだけで人を見るのではなくて、僕が一生懸命に働くことを評価してくれたのです。

卒業したら先生になって日本語を教えようと思っています。どんな子どもも公平に扱い、僕が感じた悲しさを味わってほしくないです。

僕の中にはいつも(女性の)「私」がいます。その「私」のせいで、今までつらい思いをしました。これからもその「私」と一緒に生きていきます。人は皆同じではありません。誰もが、自分に生まれて良かったと言えるような社会になればいいと思います。 ■



アニメ

フスナ・ビンティ・ハイロンさん (19歳)
ITE (技能教育機構) 卒業 (シンガポール)



私が初めてアニメを見たのは13歳の頃です。最初は少女アニメ、恋愛にあこがれました。次に『FAIRY TAIL』、「すごいな! めっちゃカッコいい!」と思いました。西洋のアニメーションと違って、ストーリー、効果音、アニソン(アニメソング)など日本のアニメはなんだか面白くて人を誘います。

私は子どもの頃から人とのコミュニケーションが苦手で、よく誤解されました。そのせいで、これらのアニメを見るたびに自分と主人公を比べます。「あ、同じだ。でも違う」「あの時はこう言えば良かったかな」。こうして学習することで、何かが得られたに違いありません。

アニメを見ていると、当然、日本の文化や言葉をもっと知りたくなります。そして、私の中で新たな気持ちが現れました。「ああ、これはいったい何だろう。目標かな? それとも夢?」「私にできるかなあ」「いつかかなうかなあ」「日本人じゃないしなあ」。ずっとこうして悩んでいました。でもやっぱり、これは私の本心です。私はアニメの声優になりたいです。いつも笑わせてくれて、元気にしてくれて、いつもやる気をくれて。いつか、あこがれの声優さんたちと仕事をしたいです。アニメと出会えて本当に良かったと思います。 ■

関西弁 こわないで！

ジェレミー・モンテネグロ・ソレラさん (22歳)
エンジニア (フィリピン)

私が関西弁を初めて聞いたのはアニメから。全く日本語が分かりませんでした。が、重要な場面で、女性の主人公が我慢できなくなり話す関西弁。その言い方、感情の強さ……。鳥肌が立つほど感動的でした。



「関西弁は怖い！」というイメージがあるそうです。私の出身地、セブのビサヤ語も他の地区のビサヤ語と違ってなまりがあって、時々怒っているように聞こえるらしいのです。でも、実際には怒っていません。

日本語の標準語のイントネーションは優しく、面白くないと感じます。

標準語で「なにそれ」は、関西弁では「なんでやねん！」。「違うよ」は「ちゃうで！」、もしくは「ちゃう」。標準語で言われると、私は多分「は～い」と返事します。しかし、大阪弁で言われると、すぐに「あっ。はい！」と反応するでしょう。

関西弁は自分の気持ちを隠さず話し方の強弱でちゃんと伝えたり、日常の話を面白くすることができます。私にとって関西弁はビサヤ語と同じように自然に感じます。いつか大阪へ行って、生の関西弁を直接聞いて話せるようになります。皆さんも一度関西弁のドラマやアニメを見てください。

関西弁、むっちゃおもしろいで！

私たちが生きているのは何のため？

トップ・ワンナーさん (21歳)
王立ブノンペン大学・学生 (カンボジア)

私は大学に入る前、近所の無料で勉強できる学校で日本語を勉強していました。そこで、ある日本人の男性と知り合って、私の人生は大きく変わりました。その人は私が勉強を頑



張っていることを知ると、大学に進学できるようサポートをしてくれたのです。おかげで、私は今、大学で日本語の勉強をしています。

私は変わりました。以前は人の前で話したり、自分のことを表現したりするのが苦手でしたが、彼と会うことで勇気が出て、もっと話したいと考えられるようになりました。人生はつらい、全てから逃げたいと思ったことがあります。でも、お世話になった人への恩返しをまだしていないことを思い出し、くよくよ悩んでいる時間などないと気付きました。

人のために生きるには、自分の時間やお金を使わなくてはなりません。それでも、私を助けてくれた人への恩返しをしたいと思います。

まず自分の近くにいる後輩たちに私が習った日本語などを教えたいです。そして将来は無料で勉強できる学校をつくって、自分と同じように他の人にもチャンスを与えられたらうれしいです。

この人生は1回しかありません。他の人のために生きれば、自分も他の人々も幸せになって生きられるでしょう。

夢への道

ウィヤゲート・ウォラチット (21 歳)
ラオス国立大学・学生 (ラオス)

私は小さい頃から、日本のアニメが大好きでした。そのうち、アニメが分かるように勉強を続けたいと思うようになりました。

ある日、日本語の学校でイベントのための練習

をしている時、アニメが好きな先輩に出会い、楽しく話をしました。その先輩が日本語で日本人と話しているのを聞いて、私も同じように話せるようになりたいと思いました。

それから、私はその先輩に勉強の仕方を聞いて、アニメから日本語を勉強しました。日本人との交流会などにも参加してきました。すると、前よりうまく話せるようになりました。そして、奨学金をもらって自分の夢である日本に行くことができました。日本では日本文化なども体験できて、良い思い出ができました。また、何より一番良かったのは、自分の将来が見えるようになったことです。その夢とは、日本語の教師になることです。なぜなら、日本語やアニメ、私が体験した日本文化を次の世代に教えたいからです。

私が夢を見つけられたのは、好きなアニメ、日本語の先生、そして先輩のおかげです。心から感謝したいです。そして、その夢をかなえるために、これからも日本語を頑張っていきたいです。



プラスチックのゴミで育てられた私

セリ・イナヤンティさん (21 歳)
スマラン国立大学・学生 (インドネシア)

父の仕事はプラスチックのゴミを集めることです。プラスチックを集めて、分別して、そしてきれいにしてからリサイクルセンターにもっていきます。父は自分の仕事に誇りをもって、私と4人の兄弟を育ててきました。

しかし、私は父の仕事が大嫌いでした。「恥ずかしいよ」と父に言ったことがあります。また、私が中学生の時、ゴミをいっぱい積んだトラックで父が私を学校に迎えに来るのを見て、逃げたこともあります。そんな私を父は一度も怒ったことはありません。

ある日、大雨で川の水があふれていました。父はプラスチックを入れる袋に砂を詰めて、川沿いに壁を作り始めました。近所の人も駆けつけて、洪水を防ぐことができました。その時から、父は私のヒーローになりました。

私は父を手伝うようになりました。父の仕事がどれほど大切かと気付きました。

今、私は大学生です。中学生のときにトラックで迎えに来た父を置き去りにして逃げた時のことを思い出したら、胸が痛みます。父はそれほど傷ついたことでしょう。しかし、今の私は前と違って、父の仕事にプライドをもって、正々堂々と手伝っています。

私はこれからも父の仕事を応援します。



気が付かなかったベトナムの魅力
グエン・ティ・トゥイー・リンさん (21 歳)
ダナン外国語大学・学生 (ベトナム)

数カ月前の話です。私が中学生の時に日本でのホームステイでお世話になった家族が私のふるさとダナンを訪れました。

しかし、いくら有名な観光地を案内しても、日本のお父さんは何となくそれほど喜んでいないような気がしました。どうしてだろう。

翌朝、目が覚めると日本のお父さんと私の父が近所のおじいさんと3人で庭先に座ってコーヒーを飲んでいました。言葉が通じないのに、どうしてそんなに楽しそうなの？

その時、日本でのホームステイのことを思い出しました。お父さんは毎朝家族と顔を合わせることもなく、早くから仕事に出かけていたのです。

ベトナムコーヒーは一滴一滴、ゆっくりコーヒーが落ちるのを待たないといけません。お父さんにとって、朝からあんなにゆっくりと人と話しながらコーヒーを飲んだのは初めての体験だったのかもしれません。

ベトナム人はのんびりと過ごし、人とつながりをもつ時間を大切にします。私はこれこそベトナムの一番の魅力なのだと気が付きました。どんなに忙しくても、笑顔を失うことはありません。心の余裕と温かい人間関係があるからです。これから国が発展していっても、ベトナムらしくあってほしいです。 ■



優しさ

ヌルリザ・アブドール・ザバルさん (27 歳)
旅行者 (ブルネイ)

優しさはフレンドリーさとも、寛大さとも、思いやりとも定義できます。一方で、ナイーブさや弱さとも取られたりします。でも、必ずしもそうではありません。人に親切であるためには、勇気と強さを必要とします。

以前、友達が失恋した時のことです。電話で1時間ほど話したら、彼女は私に話すことで不満や失望を解消できたようでした。会話の最後に、「聞いてくれてありがとう」と私に感謝してくれました。話を聞いてくれる誰かがいることで、気分転換ができたのだと思います。

「人に親切にしてください、あなたが会う人は皆、何かしらと戦っているのです」という言葉があります。個人は表情や体格などの外見で他人に判断されることが少なくありません。怒ったような表情には、家庭での問題などが表れているのかもしれません。生活に苦しんで、やせすぎたり、太りすぎたりすることもあるでしょう。人が何と戦っているかは分かりません。見た目だけで人を判断してはいけないのです。ほかの人の親切に気付くと、自分自身も感化されます。

最後に、皆さんにひとつの言葉を贈ります。「親切にはお金はかからない。優しい言葉も笑顔も、また、親切な行いにもお金はかかりません」。 ■



私に夢を与えてくれた子どもたち

ヌウェ・ウー・カイ (18歳)
ヤンゴン外国語大学・学生 (ミャンマー)

毎朝の通学で、私が心を痛めている光景があります。それは、大学の近くにある大きな交差点で見る子どもたちです。信号を待っているたくさんの車の間をぬうようにして、水や花などを売って歩いているのです。見た



目は8〜9歳くらい。学校に行けずに、路上で商売をしているのです。でも、ただ悲しんでいても仕方ありません。このことがきっかけで、こうした子どもたちを支援する仕事につくという夢が生まれました。

実は、これにはもう1つ理由があります。私は大学1年生の時に、家庭の経済的事情で進学できない子どもたちを支援するチャリティに参加しました。子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ、活動が続けていこうと思うようになりました。また、大学2年生の時に日本企業から奨学金を受けることができ、日本政府や民間企業、一般の国民の寄付によってミャンマー各地で学校が建設されていることを知りました。

私はミャンマーも日本も、日本語の勉強も大好きです。将来は日本語を活かして、このような支援事業の活動をしていきたいと思っています。この国の全ての子どもたちが貧富に関係なく学校に行けるような国にミャンマーを変えていくことが私の夢です。 ■

私の夢について

ヨー・シー・フィさん (19歳)
トゥンク アブドゥル ラーマン大学・学生 (マレーシア)

私の夢は将来カウンセラーになって、マレーシア人やマレーシア在住の外国人にカウンセリングを提供することです。

2007年から10年までに、マレーシアでは151人の外国人が自殺で亡くなりました。原因の1つはうつ病です。

現在、マレーシアには日本人を含め外国人がたくさんいます。中には文化の違いや異国での暮らしになじめず、苦勞している人が大勢います。小さい子どもを連れてきている外国人は、親自身が新しい環境に慣れないうちから、子どもを新しい生活になじめるよう支えなくてはけません。親は二重のストレスを抱え、生活にも悪影響を及ぼすことがあります。また、子育てへの不安を誰にも相談できない妊婦さんもあります。

以前、私がカウンセリングを受けた時、英語で話すカウンセラーに「中国語のほうが分かりやすいです」と言ったら、すぐに流暢な中国語に切り替えて、私の悩みを真剣に聞いてくれました。話せる言語が多ければ多いほど、多くの人の力になれることに気が付きました。

私も多言語が話せるカウンセラーになって、英語、中国語、マレー語と日本語でマレーシア人や海外からマレーシアに移住した外国人の悩みを聞き、力になりたいと思っています。 ■



草の根交流は種をまく作業

日外協 業務部主幹 林 徹

(日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へい事業コーディネーター)

今回の日本語スピーチ発表会には、発表者が以前来日した時にお世話になったホームステイ先のご家族や、現地での教育支援などのために日本で寄付活動を行っている個人や企業の方々に来ていただくことができました。また、日外協が過去に日本に招へいしてその後、再び日本に来て仕事や勉学に励んでいる OG、OB の皆さんも大勢駆けつけてくれました。草の根交流の輪が着実に広がっていると感じました。

大使館もこれまでで最多の5カ国の関係者が出席。自国の代表メンバーを温かく励ましている光景が今も印象に残っています。当日はあいにく欠席だったブルネイ大使館も、発表会の翌日、大使が公邸でのランチ会の席に、ブルネイ代表のヌリザ・アブドール・ザバル（通称リサ）さんと私たちを招待してくださいました。リサさんは大喜びでした。



左からリサさん、カミラ・ハニファ駐日ブルネイ大使、藤田日本アセアンセンター事務総長

今回初めて ASEAN10 カ国全てから代表を迎えることができ、ご協力いただいた国際交流基金をはじめ各国関係者の皆様には心からお礼を申し上げます。

来日プログラムでは企業訪問・見学に時間を割きました。その分、かなりハードなスケジュールになってしまいみんなの体調が心配でした。それでも疲れより関心や好奇心が上回ったよう



みんなで“ASEAN is No.1！”（前列右端が筆者）

です。「日頃使っている製品が作られている現場を見ることができ、さらに身近に感じられるようになった」「日本の高い品質・技術を実感できた」などとても好評で、ほっとしています。

私がこの招へい事業を担当するのは3回目。事業の意義を再確認しようと各国の日本語スピーチ・コンテスト関係者と意見交換を行う中で、この事業が ASEAN で日本語を学ぶ青年たちにとって大きな励みになっていること、同時に来日をきっかけにさらに明確な目標をもって努力を続けているということがよく分かりました。彼らにとって来日はゴールではなくスタートなのです。

日外協の国際交流はある意味、種をまく作業であり、すぐに芽が出ることはありません。しかし、長い目で見れば必ず大輪の華を咲かせるに違いありません。来日メンバーの中から将来、会員企業でグローバルに活躍する人材が大勢出てくることを楽しみにしています。

私は毎週日曜、少年ラグビースクールでお手伝いをしています。かつて校長から「子どもを教えてあげてと思うな！ コーチが真剣に子どもの成長に携わせてもらい、子どもから教えてもらうんだ！」と言われ、実行してきました。この草の根交流事業も同じ。彼らに元気をもらい勉強させてもらい、いい経験をさせてもらっていると感謝しています。（談）

とても幸せな1週間

あっという間だったが、いろいろなことが体験できた。



10月14日(日)
1日目

日本到着

成田空港到着。思いがけず友達が迎えに来てくれていて、花束をもらった。ホテルまでの途中で高速道路に高い壁があることに気付いて、友達にその壁の目的は何か聞いた。皆さん、どうしてなのか考えてみてくださいね。

10月15日(月)
2日目

オリエンテーション・日本語講座

日外協で温かい歓迎を受けた。一番感動したのはベトナムの旗と私の名札が机の上にていねいに置いてあったことだ。『月刊グローバル経営』9月号に各国での日本語スピーチ・コンテストのことが紹介されているのを見て、全員ビックリした。私の写真も載っていた。



日本語講師の長谷川 敦先生を囲んで

協会職員との交流会と昼食会の後、午後は日本語講座。そして、木曜日の日本語スピーチ発表会に備えての練習。みんなのスピーチを聞いて、すごいと思った。

日外協からももらったPASMOに「リンちゃ

んかわいいよ」と書いた。やった！(笑)

10月16日(火)
3日目

凸版印刷「印刷博物館」・味の素川崎工場・AGC ショールーム

凸版印刷の「印刷博物館」を訪問。自身の名前を1文字ずつ選んで、活版印刷でしおりを完成。



午後は味の素の川崎工場を見学し、かつお節削りを体験。おみやげもいっぱいもらった。



夕方は日外協の近くにある「AGC Studio」。いろいろなガラスを使った生活シーンにაცოგაれた。夜は自由行動。



10月17日(水)
4日目

ホンダ狭山工場・はとバスツアー



ホンダの狭山工場
でUNI-CUBに試乗

ホンダの狭山工場へ。自動車製造工程を見学した。

午後は「はとバス」で東京都内を観光。東京スカイツリーへ行った後、お寺で参拝。くじを引いたら、「吉」が出た。

10月18日(木)
5日目

日本文化交流・スピーチ発表会

慶應義塾大学の日吉キャンパスを訪問。そこで日本文化を体験し、学食で昼食。午後から日本アセアンセンターに移動し日本語スピーチ発表会。大使館関係者も列席してくれた。

昨日の夜、私が中学生の時、日本でお世話になったホームステイ先の日本人のお父さんとお母さん、そして娘の優奈さんが三重県から来てくれて、8年ぶりに家族みんなで食事。こんな幸せなことめったにないかしら。発表会にも来て応援してくれて感動した。幸せだ。日本のお母さんは始まる前、「リンちゃん、発表する時、恋人募集中と言い忘れないでね」と小さい声で私に言った(笑)。

大切な日本の家族たち



10月19日(金)
6日目

パナソニックセンター・東京ディズニーランド

パナソニックセンターを見学。「ようこそ日本語スピーチ・コンテスト優秀者ご一行様」という目立つ看板と、高く掲げてあるベトナム国旗を見つけて、とても幸せだった。最新テクノロジー商品を体験したり、写真でしか見たこと



各国の国旗を掲げてくれたパナソニックセンター



お台場の
実物大ガンダム

がなかった技術を実際に見たり、600万円ぐらい(?)のとてもしばらしいサウンドシステムで音楽も鑑賞できて、最高!

夜は東京ディズニーランド。ジェットコースターはすごく速いし、宇宙旅行を楽しむよう。

暗くて何も見えなかったけど、みんな怖かっただろうな。私は「OMG (Oh my God) !」と叫んでいた。



10月20日(土)
7日目

自由行動

1日中フリー。1週間を思い出してみると、ベトナムにいるときはバイクがあるからほとんど歩かなかったが、日本ではたくさん歩いた。電車もたくさん乗った。1人で電車を体験したら、1回目は乗り過ぎてしまった。2回目は新宿駅で迷子になって泣きそうになった。3回目は駅を出たけどホテルまでの行き方が分からなかった。電車では日本人の行動をよく見て、私もまねしてみた。例えば、電車の中でつり革を握らないで立つ、立ったまま読書をする、座ったら寝る。

10月21日(日)
8日目

帰国

帰国の日だ。タクシーとバスで成田空港へ。ちっとも名残り惜しいと感じなかった。いつかきっと日本に戻ると思うから。

やりたいことをやって、いろいろなことに挑戦して体験して自分を成長させよう。

【ブログURL】 <http://www.linhworld.com/2018/10/giai-thuong-nichigaikyou-p1-cac-hoat-ong.html>